

教育・保育理念

- ・自分も友だちも大切にできる心の育成
- ・学びの芽の育成
- ・自分の可能性や能力を十分に発揮できる力の育成

園の重点項目

一人一人の人権を大切にしながら、子どもが安心・安全に過ごせるようにし、主体的に生活や遊びを取り組む力を育む

令和6年度 重点内容

- ・主体性と自己肯定感を育む
- ・楽しく体を動かし健康な体作りをする
- ・幼保小と連携し学びと育ちをつなげる
- ・地域とのつながりを深める
- ・職員の資質向上をめざす

重点内容	重点内容に向けた具体策	評価項目	自己評価	こども園関係者評価
主体性と自己肯定感を育む	日々の生活や遊びの中で一人一人の主体性や自己肯定感が育まれるような教育・保育の保障や保育教諭の関わりを大切にしている	・園児の表情や行動を温かく見守りながら思いを受け止め自尊心を育てる ・園児の意欲や探究心などを引き出す保育教諭の関わりを大切にしている	A 乳児クラスでは担当制を実施し、日々同じ職員が同じ流れで、園児に丁寧に関わることで、安心して園の生活に慣れていくことができた。幼児クラスでも保育教諭や友だちの支えの中、自分の思いを伝えることや気持ちの折り合いをつけることができるようになってきた。生活や遊びの中で園児の発達を見極め意欲や達成感に繋がる援助をしてきた。成長した姿を保護者と確認し合う機会を設定することができた。	A ・アプリの活動報告は写真付きでとてもわかりやすいが、個々の様子が少し伝わりづらい。 A ・折り合いをつける力を大切にしたい。
	保護者と園児の育ちを共有し、教育・保育内容を園だより・クラスだより・フォトニュース・ホームページで知らせ、一緒に子育てをする	・保護者に教育・保育内容や園児の姿を工夫して伝え成長を共有する ・家庭環境や保護者のニーズを理解し、共に子育てしていく視点をもち信頼関係を築く	B 発達に沿った運動遊びを積極的に取り入れ継続的に実施していくことで、健康な体づくりに繋がった。保育教諭と共に危険予知をする経験から見通しを持ち、日々の活動の中で安全教育を行ってきた。	A ・園庭が広くたくさん遊べてよい。 ・小学校での体力向上の取り組みと連携も可能ではないか。
な動楽する 作し り健 を康	リズム遊びなどを継続して行い体を動かすことの楽しさを感じ体力向上を図る	・体を動かす遊びに定期的に取り組み心と体をほぐし体幹を鍛える ・園内外の環境を常に整備し安全点検や安全教育を行う	A 発達に沿った運動遊びを積極的に取り入れ継続的に実施していくことで、健康な体づくりに繋がった。保育教諭と共に危険予知をする経験から見通しを持ち、日々の活動の中で安全教育を行ってきた。	A ・園庭が広くたくさん遊べてよい。 ・小学校での体力向上の取り組みと連携も可能ではないか。
	小学校の参観に行ったり、こども園に来てもらうなどお互いの教育・保育を知る機会を持つ	・小学校児童との交流、小学校職員との意見交流等連携を通して教育・保育の質の向上を図る	B 近隣に小学校があることで、園児にとっては興味や関心を持てる環境であった。小学校児童との交流を通し、お互いを知る機会を持てた。特に就学前の園児にとって見通しや期待を持てる貴重な機会であった。同じく地域の他施設の園児と3園交流で関わられたことも、就学への期待に繋がっている。	A ・小学校児童との交流は児童にとっても兄さんお姉さん役として喜んでいた。 B ・地域のこどもの数が少なくなってきたので、いろいろな交流があると新しい友だちや知らない友だちと過ごす機会になり有難い。
な地が域りとをの深つ	地域のサロンに参加したり、園庭開放やほっと預かりなどで交流を行う	・地域の施設を訪れ関係機関や団体等の協力、連携を図り子育て支援をとに行う ・地域の教育・保育施設と情報交流や課題を共有し、連携して子育て支援をすすめる	B 戸外に出かけた時や園庭開放・園見学で来園された地域の方と挨拶したり、関わったりする機会があった。行事では『お話し会』	B ・サロンについてはコロナ禍以降の参加者が少なく園児参加なし。 A ・定期的な『お話し会』を園児がとても楽しみにしている。
	地域の方とお茶会などを通して交流の機会をもち、日本の伝統に触れる	・地域の方に来ていただき、文化や地域の特性を生かした教育・保育内容を実施する	A 『お話し会』で地域の方と触れ合い貴重な経験をすることができた。	A ・定期的な『お話し会』を園児がとても楽しみにしている。
向職上員すのめ資ざ質	園内研修などで教育・保育実践を振り返り、教育・保育の質の向上を図る	・理念や方針、教育・保育課程、指導計画について職員同士が共通理解する ・研修などを通じ専門性の向上に努めるとともに自己研鑽を積極的に行う	B 年齢の系統性を意識し連続性のある教育保育を実施してきた。会議及び研修を通じ共通認識のもと進めるよう努め、職種も含めた連携をこまめに行うようにした。	A ・幼保間の連携及び連続性のある教育保育が幼保小の中心の課題となる。 ・職員研修を経て実践した手作りコーナーにて、毎日いろいろな物を作り、園児の遊びのバリエーションが増えた。

今後の取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法	園長より
保護者との信頼関係を構築する	年齢の発達からこども園で大事にしていることや育てたい力を伝える中で、個々の園児の姿や課題を含め、保護者と丁寧にコミュニケーションをとっていく。	連続性のある質の高い教育・保育の実現に向け、幼保小の連携を強化する。保護者にも可視化すると共に積極的にコミュニケーションを取り、園児一人一人の姿や課題を共有する。
幼保小の連携	架け橋期の教育・保育の充実にに向けた取り組みを実践していく。地域の幼稚園や小学校との交流及び会議に参加する。	